

## 「米沢市の地域振興への取り組み」

### 1. はじめに

地方自治論の講義中に、各自治体が地域振興のために様々な取り組みをしていることが取り上げられていた。様々な議題をこれまで取り扱ってきたが、その中で私自身は地域振興のためには何が重要であるかに興味を持ったため、このことについて考えていこうと思う。

### 2. 本論

第一に、地域振興のためにはお金の巡りが重要であると私は考える。経済を滞らせない為には、その場所でお金を使ってもらえる事が何よりも大事である。そして、観光客を呼び込むことは、経済発展という点において有効な手段である。第二に、その地域に住む人間の数の増加が、地域振興という点においてやはり重要であると私は考える。観光客にお金を落としてもらえども大事ではあるが、それはあくまで地域にとっては一時的な収入でしかない。その場に住んでいる人間が、定期的に活発な経済活動を行ってくれることこそ重要なのである。実際、活発な経済活動が興る地域は、何かしらの大きな魅力を持ち合わせており、既に多くの人間が定住している。それでは、この重要な二点を実現するために自治体とその地域住民はどうすべきかを模索していきたい。

私は以前、山形県米沢市で地域振興に繋がる活動に関わることがあった。米沢市は雪深い辺鄙な田舎ではあるが、歴史が深く歴史的建造物などが数多く現存している。また、食においても大きい魅力を持つ市であり、さくらんぼはもちろん、日本三大和牛のうちの一つの米沢牛を有している。米沢市では、上記のような魅力を最大限に活用した、四季折々の様々なイベントを開催している。私は、米沢市が主催の大学サークルに所属し、このようなイベントの企画と運営にたまたま携わる機会があった。自身の携わったイベントが、どのように集客を行っていたかというところに重点を置いて、紹介していきたい。

米沢市において一番大きな催しが、「棒杭市」という秋に開催されるお祭りである。このお祭りは、江戸時代に米沢市で盛んだった無人販売所の文化を復興させたイベントであり、米沢市の歴史を上手く活用したものである。この無人販売所で扱う商品は、米沢市の物はもちろん、姉妹都市などの他の都市と連携して、全国から品を取り寄せて販売所に並べられる。商品の出品を依頼する際に棒杭市の広告を同時に行うことができるこの手法は、イベントの知名度を高める点で有効である。そして、このイベント会場のステージでは、開催時間延々と様々なパフォーマンスが行われる。特に戦国武将隊の演武はなかなかの人気であり、これを目当てに県内外問わず人が訪れるほどである。今日の日本文化ブームもあり、外国人の姿を多々目にしたことは、私自身も驚きであった。さらに、集客のために、大学生がラジオ局に時間を割いてもらい広告を行ってみたりと、イベントを知ってもらう

ことに米沢市は力を入れていたように私は感じた。また、米沢市では棒杭市というイベントのほかに、年間を通して様々な催しを行い、多くの人間に足を運んでもらう努力をしていた。春には、上杉まつりが開催され、桜のお花見と共に戦国武将として有名である上杉氏にちなんだイベントを楽しむことができる。夏には、ほたる祭りが温泉地で開催される。観光客しかあまり訪れないこの場所も、この時期には地元民も訪れる。冬には雪灯籠まつりが開催され、同時に出店やステージパフォーマンスなども行われる。

米沢市のこれらのイベントは全てかなりの集客力を誇っており、歴史や地理を上手く活用したり、広告の為に様々な手法を取り入れている点は、地域振興のための集客という点ではとても参考になるのではないだろうか。

一方で、定住者を増やすという点では、米沢市にはまだまだ課題が多いと私は考える。冒頭で述べたように米沢市は相当な田舎である。交通の便が悪く、自動車がないと生活面はかなり不便である。お店がそれなりに揃っているエリアを外れるとコンビニも飲食店も少なく、買い出しに出るのも一苦労、といった具合である。また若者が多く住むであろう大学周辺は、その発展しているエリアからは大幅に外れており私自身はたいへん不便に感じていた。米沢市の住民はとても親切で人柄がよく、その点での住み心地はとてもよかったが、自動車という移動手段を持たないままこの地に定住したいと思うほどには、私は米沢市に魅力を感じられなかった。このような実体験から、定住者を増やすにはその地に住むデメリットを超える魅力を自治体は提供する必要があると私は考える。

### 3. おわりに

最後に、地域振興のためには何が重要であるかという問題に関して、自分なりの見解を述べる。経済活動を活発にすること、人を呼び込むこと、定住者を増やすこと、などの地域振興には欠かせない目標を達成するには、自治体と地元住民が共に問題解決に取り組むことが重要であると私は考える。自治体のみが地域振興に躍起になっている姿を最近をよく見かけるが、実際にその地域の力が衰えて困るのはその地にいる住民である。私自身もそうであるが、地方自治論を受けるまで自治体が地域振興に懸命になっている姿を、他人事としてしか認識していなかった。愛国心はあまりなくとも、故郷を愛しているという日本人が多いのは紛れもない事実である。でなければあれほどまでに、市町村合併の際に反対する人間が多いわけがないのである。故郷を残したいという意思をもった人間がこれほどまでに存在していることは確かなのであるから、自治体は自治体のみで四苦八苦するのをやめ、地域住民と共に打開策を打ち出していく方針に変えていくことが先決なのではないだろうか。今回じっくりと地域振興について考えてみたが、もはや地域振興という目標は、自治体のみでの努力ではどうにもならない域に達してきているのではと私は感じた。特に定住者を求めるのであれば、その地域自体の魅力、住民の人柄、住みやすさは無視できない要素である。よって、地域振興のためには自治体と地域住民が共に課題に取り組むことが重要であると私は言及したい。